

平成23年度 伊勢地域公共交通会議 第1回 議事要旨

■ 開催概要

日時：平成23年5月30日（月）15:00～

場所：伊勢市役所 東庁舎 5-2 会議室

出席者：全19名

学識経験者 2名（四日市大学教授、中部大学教授）

市民代表 4名

一般乗合旅客自動車運送事業者

1名（三重交通伊勢営業所所長）

一般旅客自動車運送事業者

1名（三重県旅客自動車協会伊勢支部長）

一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車運転者が組織する団体

1名（三交伊勢志摩交通労働組合）

中部運輸局三重運輸支局

1名（首席運輸企画専門官代理）

中部運輸局企画観光部

1名（地域生活交通支援室長）

三重県伊勢警察署 1名（交通第一課長代理）

三重県 1名（三重県政策部交通政策室長）

伊勢市 2名（市長・都市整備部長）

事務局 4名（伊勢市都市整備部交通政策課）

■ 議事内容

1. 伊勢地域公共交通会議平成22年度事業報告・収支決算および平成23年度事業計画(案)について事務局より、平成22年度事業報告・収支決算および平成23年度事業計画(案)について、資料を用いて説明。

デマンド運行の資料を見ると、利用方法で電話予約をする時に人数はいらないですか。もう一つは、バリアフリーの状況ですが、小型になったときに、どんな対応があるのか。（学識経験者）

⇒予約の時には、人数も報告してもらうように考えています。バリアフリーについて、使う車両は、セダン型のタクシー、もしくはジャンボタクシーを予定している。（事務局）

⇒障がい者の方については、福祉車両のところでサポートはしているので、いずれかは、トータルでのフォローが必要だと思う。（議長）

人数については、契約の中で決まっており、セダン型であれば2両、ジャンボタクシーであれば1両ということで、1便あたりの予約人員が9名です。ただ、車に余裕があれば、受けてという要請はかけております。

バリアフリーについては、現在でも、乗用自動車の中で、家の前までというとなが、停留所でお待ちいただくのが大前提ですので、停留所まで出てきていただくまでの対応策というのが、今後の課題ではないか。これは、バスでもデマンドでも基本的には同じですけど。

(三重県旅客自動車協会伊勢支部)

⇒バリアフリーのことも今課題がありますけど、この辺はうまく取り入れながら、進めていきたいと思えます。(議長)

それに関して、利用する側として、バスですと無理だと思っていたところが、タクシーですと、車いすで付き添いで来られた方が乗るといときは、乗れますよね。あと、ベビーカーでも、乗れますよね。それは、デマンドの場合は乗れる人というふうに判断するのですか。バスですと、ノンステップじゃないと難しかったりするのですけど。(市民代表)

⇒あくまで、デマンドというのは、バスの補填というふうに現在のところ考えてまして、福祉まで正直そこまで拡大しては考えていませんでしたが、一つ課題であるとは認識しています。少なくとも、バスよりは、人数が個人対個人というような対応もできるのかと考えています。今後、三交タクシーとの協議になりますが、トランクに載せるものであれば、個別に対応できるのかと思います。ただ、大きなものになると載せられないので、福祉タクシーという契約は現在のところ考えていない状況です。(事務局)

⇒車いすの方は、福祉タクシーを案内できるような形をとっていくことも一つ必要かもしれませんね。運行会社には、8月1日にスムーズに運行して進めながら、課題が出てきて、その都度改善していくことになると思えますので、ご意見をちょうだいしたいと思います。(議長)

議案、第1号から第3号については、事務局からの提案事項に関して承認をいただいた。

2. 生活交通ネットワーク計画案の策定について

事務局より、生活交通ネットワーク計画案の策定について、資料を用いて説明。

今回、これまでの補助制度の期限が切れて、非常に予算面が心配で、頭の痛い課題でありましたけど、新たな制度での計画策定により新しい取り組みができるということで、非常に有難いと感じています。6月30日までの提出ということで、ここで皆さんにお謀りして決めていただいた後、事務局で詰めて提出するという流れになりますが、非常にタイトな日程でもありますので、そういう進め方でご理解いただきたいと思います。(議長)

3. 平成24年度運行に向けた検討について

事務局より、平成24年度運行に向けた検討について、資料を用いて説明。

日赤が移転することで、市内の交通の流れがかなり変化が起こってくるだろうと思います。これは、事前に準備が必要になってくると思います。(議長)

運賃値上げとのことなんですけど、大半が高齢者、小学生の運賃収入になるんですが、市は基本的に半額の100円の設定のほうの収益を考えているのか、それとも、あくまでも200円で計算を

しているのか。(三交伊勢志摩交通労働組合)

⇒おかげバスを走らせたときは、全国的に各地でコミュニティバスを走らせていました。伊勢市も合併時に統一的なサービスをとということで、コミュニティバスを運行しました。旧小俣では、小俣町福祉バスが走っていて、1回100円で乗車できるのですが、小俣図書館の図書カードがあれば、無料で乗れるという条件でした。旧伊勢市では、寿バス券という、いわゆるフリーパス形式の券を発行していました。それらの代替手段という意味合いもあり、高齢者に対する費用の軽減というのがありました。本来であれば、路線バスと同じような料金設定が理想ですが、実際には、高齢者には半額の運賃としているものの、基本は200円の設定だと考えています。(事務局)

他所でも、例えば、三重交通が撤退して、市町村のコミュニティバスが料金を下げて運行して、そして、財政が苦しいと。三重交通が補助金をもらって、収支が合わないので撤退しているのに、それ以下の運賃設定をしたら、当然、納税者に負担をかけるというのは最初からわかっていることをするわけです。鳥羽市は、旧来の三重交通の運賃設定に近い金額で、200円、300円、400円設定というのがあります。長く、いつまでもおかげバスを運営していくのであれば、やはり、それなりの収入、料金をいただかなければいけないと思いますが。(三交伊勢志摩交通労働組合)

⇒役所というのは1回低いサービスで提供するとなかなか上げにくいという実情がありますけど、それをいかに受益者負担のところに適正化を結びつけていくかという課題があります。その一方で、本来の目的で、タクシーという視点ではどうなんだと、いろんな視点から見ると必要があると思っています。例えば、図書館を例に出しますと、年間約2億円の財政投資をして、それを実際に利用者から負担をいただいているかということ、市民の知識向上のため、投資をしているということもあります。その受益者負担の考えからの視点と、あと福祉という視点と、様々なところで、できるだけいい落としどころは必要かなと感じています。(議長)

それは分かるんですが、昨年か一昨年前にも話したが、例えば、有滝から伊勢へ行くのに300円、400円という金額で、東大淀の方からほとんどの方が100円で乗れると。結局、既存の運行路線があるところは、三重交通の運賃設定で、無いところはコミュニティバスの運賃で、平等性という観点からはかけ離れているのかなと思います。(三交伊勢志摩交通労働組合)

⇒それは社会情勢なんかもぬぐいきれないですけども、まずは、利用客の方々を増やすということをきちんとやっていくのが大事だと考えています。(議長)

もう5年目、6年目でしょ。いろんな形で新伊勢つくったときに、合併の様々なことを見直ししてではないですか。これであとデマンド入れて、収支の改善が図られるだろうが、22.5%の補助がなんとなく出そうだから、なんとかいくけれども、来年、やはり、大きな見直しをかけていかざるをえないのかどうか、そのときに料金設定も含めて、特に市民の皆様には、もうここで市の方が維持できないような赤字が出たら、もう公共交通なくなってしまうかも分からないよ、くらいの危機意識をあおって、とにかく利用してもらいたいという意思是示さないといけないのでは。最初のルート設定も、皆様方と苦労してしまいましたが、やはり、地図の上でバスが走っていないところをとにかく全部走らせようという形で始まっているから、それが維持できないというのは、ある意味、住民の皆様に使っていただけなかったんだ。ただ、これから本当に必要になるよということは再度言ったうえで、もうこれでしょうがないですね、やめますか、という話に、

もう戻ってきてしまうかもわかりませんね。だから、利用してくださいということを、最後まで言い続けたいな。そのために値段ももう少し上げないとしょうがないですよ、という話をしないとしょうがないですね。そのときに公平性の話とか、合併のときの無料の話をもう引きずるのはやめましょうというようなところでの、料金設定の話っていうのがあっていいのではないかなという気はします。(学識経験者)

今の話と同じですが、期限は10年として、始めて今5年目、だから、10年という期限をもっと市民に言って、大きく変えるよと。そして、乗れと言ってもなかなか乗らない人は乗らないという感じがあり、大きく少子高齢化でコンパクトシティみたいなところも、おおいに市民に訴えていかないと、どうにもならないような話です。だから、伊勢市の考えが、少子高齢化で小学校をまとめてくのと一緒に、住居地においても、お年寄りはあるべく中心へ来てというくらいのことをはっきり言って、動きが出てくるようなことに視点をしっかり持ってほしい。(市民代表)

⇒そういう危機意識を持って、今年は、料金は据え置いていただくとしても、利用者を1人でも増やすという目標を掲げてしていきたい。(事務局)

地域公共交通会議の構成もこれだけのメンバーでは当然足りないので、部会とかを作って、その時大事なのがメンバーの中に病院関係で医師会とか、商工会議所とかに入っていると、特定の病院、商店だけだと、不公平感が出てきますので、そうすると、もっと地域のニーズとか、商業の活性化、病院の話とか、色々な要望に対して、対応がやりやすいかなと思います。

もう一つは、肝心なのが、民間の路線バスの関係です。当然、この会議はおかげバスの会議だけではなく、地域公共交通会議という名前は、地域の交通、鉄道も含めた話になっていいはずなので、そういった話題というのも大事だと思っています。要するに、こういう問題があるんだけど、ここでは議論できませんというのではおかしい話で、地域で問題があるのなら、それも取り入れて、会議としてやっていくということが必要なかなと思いますのでご検討ください。(学識経験者)

先程、話もありましたが、コンパクトシティというまちづくりの都市計画の観点からどういった交通をつくっていったらいいのか、観光客の方から見た交通というのはどうなのか、これから御遷宮を迎えるにあたって必要なときなのかなと思いますので、そのあたりも加味してやっていきたいと思います。(市民代表)

本日、ご意見をいただきましたが、8月からのデマンド方式については、できるだけ大きくプレスにも取り上げていただけるような発表の仕方というのが非常に大事だと思います。デマンドタクシーの出発式か何かで、皆さんに出てきていただいたら、デマンドの新しい取り組みに対して、皆で応援していくんだという姿勢を出したいなと思っていますので、ご協力をお願いします。おかげバスもちょうど5周年ということで、できるだけ前を出て、PRしていくような仕掛けも見直していただけたらと思います。